

R1

乳房整容性自動解析実現に向けたシステム基盤構築

素輪 善弘

京都府立医科大学 形成外科

R2-1 ブレスト・インプラント合併症の JOPBS Grade と Rescue

棚倉 健太

三井記念病院 形成外科・再建外科／乳腺センター

乳房再建術のうち、ブレスト・インプラント(BI)の合併症について、Common Terminology Criteria for Adverse Events(CTCAE)分類と Clavien-Dindo (CD) 分類を参考に分類した。CTCAE 分類は、2017 年 11 月に米国 National Cancer Institute (NCI) の Cancer Therapy Evaluation Program (CTEP) が公表したオリジナル CTCAE v5.0 の日本語訳 JCOG 版を参照した。CD 分類についても、JCOG 術後合併症基準を参照した。いずれもほぼ介入を要さない 1/I から死亡の 5/V までの 5 段階に分類され、CD 分類においては III と IV がさらに二つに分類されることが特徴である。

乳房再建に非特異的な合併症である脳卒中、心筋梗塞、血栓症、肺炎、術後出血については、CD 分類をそのまま踏襲した。BI に関連するもののうち、回転、位置異常、形態異常、被膜拘縮については、外科的介入を伴うものを III とし、BI 入替を伴わないものを IIIa、BI 入替

を IIIb、BI から自家組織への入替を IIIc、BI 単純抜去を IIId とした。IV 以上は設定しなかった。感染については抗菌薬等の保存的治療を要するものを II に、創部疼痛については疼痛管理専門医による投薬/治療を要するものを II とした。BI 破損については、画像診断で確定されたものを I とした。IV 以上については CD 分類に従った。アレルギーについてはアレルギーを疑うが確定されないものを I に、IVa にはアナフィラキシーを充当した。遅発性漿液腫と BIA-ALCL は同一項目内で扱うこととし、IIIId までに遅発性漿液腫を対応させた。BIA-ALCL については CTCAE の治療関連続発性悪性疾患を参考とし、IVa は BIA-ALCL の確定例のうち外科治療のみのもの、IVb は抜去以外の追加治療（化学療法や放射線療法）を要するもの、V を死亡とした。

梅澤 裕己

日本医科大学付属病院 形成外科・再建外科・美容外科

乳がん術後の乳房再建は、人工物による乳房再建が保険承認されると同時に爆発的に増加しました。それまでは自家組織を中心とした乳房再建を行っていた病院でも、乳房再建にはそれほど注目をしていなかった病院でも、人工物による再建を取り入れる施設が増えました。乳房オンコプラスチックサージャリー学会でも新規承認された人工物についての講習会や調査を行い、合併症の研究をする目的で JOPBS 合併症ワーキンググループ（以下 WG）として 2018 年 6 月より会議が開始されました。しかしながら、以前よりマクロテクスチャードを中心としたシリコンインプラントは未分化大細胞リンパ腫（以下 ALCL）のリスクがあると指摘されておりましたが、2019 年 7 月に、国内で承認されたアラガン社のティシューエキスパンダー（以下 TE）およびシリコンプレストインプラント（以下 SBI）の販売が停止され、国内の各施設は大混乱となりました。その後、TE/SBI 共にスムーズタイプが販売されることとなりましたが、それまでの技術や経験の蓄積がある程度無駄になってしまったと感じる医師も多かったと思われます。合併症の研究に関しても形状変更に伴い、連続的に統計を取ることは困難であると思われます。

しかしながら、人工物での再建合併症という点においてはテクスチャードタイプあるいはスムーズタイプでも起こりうる事象は大きく代わらないと判断し、以前示させていただいた TE についての合併症分類の項目を再確認し、課題を抽出し報告します。

以前の報告では、CTCAE を基本として項目拾い上げを行いました。項目としては①心臓や中枢神経の重大な合併症や血管トラブル、②本術式に伴う合併症、③TE 挿入に特有と考えられる合併症、④そのほか報告すべき合併症に分け、重症度は JCOG 術後合併症基準 Clavien-Dindo 分類を参考とし改変して使用しました。

新たに考えるべきことを以下に示します。

TE 挿入術は恒久的な再建ではなく、二期的に再建を行うための一時的な措置であるため、テクスチャードタイプの TE から ALCL が発生するリスクは軽度と思われます。しかしながら、TE がスムーズタイプになったことにより、位置異常や被膜拘縮の出現率の増加、あるいは現状で薬事承認を通過したばかりのマクロテクスチャードの SBI を待っている待機期間での破損などを考慮する必要があります。また、少数とは思われますが 2019 年 7 月までにテクスチャードタイプの TE が挿入され、あるいは別会社の TE が挿入され、現在まで現状維持されている方と、それ以降にスムーズタイプの TE を挿入された方と混在している現状があります。ALCL などの報道、新型コロナウイルスなどの他疾患の報道に伴い患者不安は増大し、いわゆる Breast implant illness(以下 BII)のような症状を呈する患者が増加する可能性もあり、これを合併症としてカウントできるようにすべきかどうか議論が必要と思われます。